



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

自律神経の働きと自覚症状

総合内科 科長 井上 紳

人間の体は交感神経と副交感神経からなる自律神経が張り巡らされ、環境の変化に合わせて体の状態を調節しています。医療施設ではバイタルサインと呼ばれる呼吸・脈拍・体温・血圧を測定して患者さんの自律神経の働きを推定します。特に脈拍は変動が大きく測定も簡単なために自律神経活動の指標になります。

日中おもに働くのは交感神経で、特に運動時には交感神経が呼吸と脈拍を上げて全身の筋肉に肺で取り込んだ酸素を十分供給できるようにします。交感神経は情動にも反応しますが、パソコンやゲームなどに熱中すると交感神経が興奮し続けることとなります。

一方の副交感神経は、脈拍や血圧を下降させ、消化管の血流を増して食事を取り込んだ栄養が肝臓などに取り込まれるよう、消化吸收の動きを促進します。ですから食前食後は一定時間の安静が必要です。

体の維持に欠くべからざる自律神経系ですが、ストレスの多い現代社会ではその変調により様々な症状が現れます。交感神経が緊張しますと血圧や脈拍が上昇しますが、血圧が上昇している場合には交感神経の緊張によるのか、体質的ないわゆる本態性高血圧か、あるいはホルモンの異常によるものかを見分ける必要があります。また、交感神経の過度の緊張は動悸や不整脈感、息切れ症状となって現れますが、心臓が弱る心不全や不整脈、呼吸器疾患との見分けが重要です。さらに、交感神経緊張状態では筋肉も緊張するために肩こりや頭痛が生じやすくなります。女性の冷え性に影響するほか、唾液が減少して胃腸の運動が抑えられて口の渇きや食欲減退、胸焼け症状が出現します。また、発汗過多、便秘、

男性の排尿困難や女性の生理痛にも影響します。

一方、副交感神経優位であれば夜は熟睡でき、栄養はたっぷり取り込めて健康の増進に良いと考えられます。しかし注意が必要なのは肥満を生じる生活環境では交感神経より副交感神経が優位に働いていると考えられる点です。つまり、交感神経が緊張する有酸素運動が不足し栄養がため込まれ過ぎているわけです。肥満傾向では脂肪を燃焼させるため、ジョギングなど有酸素運動が生活習慣病の予防に勧められます。逆に痩せすぎの場合には交感神経優位に傾いている可能性があります。女性の骨粗鬆症を予防するためにウェイトトレーニングなど無酸素運動が推奨されます。

日常の不安やストレスなどで交感神経緊張が長期間続くと診療中の痛み刺激に過大に反応し副交感神経優位になる「迷走神経反射」が誘発され、血圧や脈拍が急に低下する可能性があります。この現象の予防には日常のストレスのコントロールのほか、抗不安薬や交感神経β遮断薬、抗うつ薬などの薬物療法が有効とされています。自律神経の安定に規則正しい生活とバランスのとれた食事、適度な運動が欠かせません。検査および治療につきましては総合内科でご相談ください。



総合内科 紹介

総合内科は科長の井上教授と講師の奥田2名のスタッフで診療に当たっております。井上教授は主として高血圧や不整脈等の循環器疾患、甲状腺機能異常や内分泌疾患を診療しております。奥田は主として気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患(COPD)、睡眠時無呼吸症候群(SAS)などの呼吸器疾患を担当しています。このほかにも、いわゆる生活習慣病である脂質異常症や糖尿病、また胃潰瘍や逆流性食道炎といった消化器疾患にも対応しております。

患者さんが病院やクリニックを訪れる頻度の高い症状に、咳があります。咳の原因としては自然に軽快する感冒に絡んだものから重篤な病気の結果起こるものまでさまざまです。咳が長続きすると、つらいと同時にそれはエネルギーの消費であり、患者さんの生活の質を大きく損ねます。できれば早く止めたいものです。他症状がある場合や胸部X線写真などで異常を認めた場合はそれらに対する治療を行います。

咳には継続する期間によって、3週間以内の急性咳嗽、3～8週間咳が続く遷延性咳嗽、そして8週間以上続く慢性咳嗽の3つに大きく分けられます。急性咳嗽の原因としては多くは風邪などの急性上気道炎のあとに引き続くものが多く、これらは比較的短時間で自然軽快を認めるため治療は鎮咳剤などによる対症療法が主体になります。ときに百日咳やマイコプラズマなどの微生物が原因であることがあります。これらの関与が考えられる場合、マクロライド系抗菌薬を使用します。

咳が3週以上続き遷延性咳嗽、もしくは慢性咳嗽と判断された場合は、感染以外の要素を考えていきます。この中には咳喘息、アトピー咳嗽などといった疾患があります。咳喘息は気管支拡張薬が、アトピー咳嗽には抗ヒスタミン薬が有効である

ので、一般には薬を使用することで咳が鎮まるかを確認し診断を行います。治療には他に吸入ステロイドを使用することもあります。

この他、胃食道逆流(GERD)により認められるものや、鼻汁と喀痰を伴う副鼻腔気管支症候群による咳などがあります。ACE阻害薬という降圧剤を内服していた場合にも咳が起こることがあります。

また、喘鳴や発作性の呼吸困難を伴う場合には気管支喘息であることがあります。また、喫煙歴が長く呼吸機能検査で異常を認めるときはCOPDである可能性を考えます。頻度は少ないですが腫瘍や肺結核などが潜んでいることもあります。このほかにも多様な病気が鑑別としてあげられます。咳だけが続く場合にその原因を探るのは少々難しいものですが、もしも咳が長期に続いてお困りの方は一度、当科にご相談に来てください。

(総合内科 講師 奥田 健太郎)



総合内科スタッフ



日本は少子・超高齢社会が進行しております。私が歯科医となった27年前には、重篤な全身疾患(心臓病・脳卒中・糖尿病など)を有する患者さんが一般開業歯科に受診することは、少なかったと思います。しかし現在の歯科医療においては、そのような患者さんへの対応が、一般開業歯科で求められる時代になってきました。そこでの多様化したニーズの対応に困ったときに、お助けをするのが、昭和大学歯科病院連携歯科です。

このたび前任の佐野晴男診療科長から、本年7月9日より連携歯科診療科長に就任しました、丸岡靖史です。

私は昭和大学卒業後23年間、1300病床を超える第3次救急病院である東京女子医科大学歯科口腔外科を経て、現在に至るまで、歯科救急、歯科口腔外科、医科入院・通院中の重篤な全身疾患を有する患者さんの歯科治療を中心に診療を行ってきました。

昭和大学歯科病院連携歯科での4年間で前任の佐野先生とともに地域の医療機関で対応が困難な患者さんを積極的に受け入れ昨年度には1339名(毎月100名以上)の紹介を受けました。

当科は、地域の歯科医院では対応が難しい方々の治療をお引き受けし、安全で痛くない、快適な治療を心がけます。地域の医療機関との連携を深め「お互いの顔が見える連携」を目指し、治療の難しい患者さんに対して診療所と病院が診るべき診療部分を連携し、よりよい治療を提供します。

昭和大学歯科病院宛の紹介状(特定の科宛の紹介状を除く)をお持ちの全ての患者さんを拝見し、複数の科を移動することなく、虫歯治療から、抜歯、小手術に至るまでの治療を包括的・懇切丁寧に対応いたします。必要に応じて院内専門各

科、昭和大学附属病院専門各科にも協力を求め、患者さんに最適・最良の治療を提供するように努めます。

歯科治療全てに対応致しますが、特に心臓病、糖尿病、抗血栓薬服用中の方をはじめとした重篤な全身疾患をお持ちの方々、認知症、脳卒中後遺症で体のご不自由な方、歯科恐怖症、嘔吐反射が激しい方、睡眠時無呼吸症候群、舌痛症、麻酔剤・薬剤過敏患者さんなども対象です。

特に歯科麻酔科との連携治療で「静脈内鎮静法」という方法を併用して、歯科恐怖症、嘔吐反射が激しい方を快適に治療いたします。スタッフには専門医として、日本口腔外科学会指導医・専門医が1名、専修医が1名、日本歯科麻酔学会専門医が1名、日本有病者歯科医療学会指導医・認定医が1名おります。

3000病床を超える昭和大学附属病院と昭和大学歯科病院全体でのチーム医療で、地域で対応が困難な患者さんに安全・安心な医療が提供出来るように医局員スタッフが一丸となり頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。



栄養室 紹介

皆さん、歯科病院栄養室をご存知ですか？

今は事務課の中に部屋が統合されましたが、業務内容は以前と同様に、患者さんの毎日の栄養管理と、献立作成・食材発注や調理などの患者給食すべてを行っています。

入院患者さんの食事を作る調理室は、入院病棟と同じ2階にあり、広さ23㎡程の小さな部屋にあります。一方、事務作業を行う栄養室は、地下1階の事務課の中にあります。

この病院で特徴的なのは、まず食事形態です。患者さんの状態に応じて、歯科医師の適切な指示のもと、食事を提供しています。主な食事は、一般常食・キザミ食・ソフト食・ミキサー食(経管・経口)などが代表的です。多くの入院患者さんは、入院時は常食で、食止め後にソフト食かミキサー食で開始となり、キザミ食まで進んで問題無ければ退院する。

このケースが大半を占めます。

困ったことに、形が無くなると、見た目から来る美しさも失われ、混ざり合った色や臭いの問題も出て来ます。この事で食事の摂取量が低下してしまう懸念もあります。また、流動性の多い食事になればなるほど水分量が多くなり、摂取できる栄養量も下がるため、その不足分を補うために、ミキサー食には高栄養の流動食などを使用しています。エネルギーやタンパク質は術後回復期の重要な栄養素ですから不足なく摂りたいものです。

また、入院期間が短いのも特徴的で、

2泊3日程度の方がとても多くいます。この間に入院患者さんには食事の説明に伺うのですが、入院期間がとても短いため、お会いできない事もあり、これからの課題と言って良いでしょう。

私達栄養室のスタッフは、入院中の患者さんの口腔内の事を考慮して、味付けの濃さや酸味に注意し、安心して食べて頂ける食事の提供に努めています。

病棟を行き来していますので、お会いする事もあると思います。お食事に対する質問など、ありましたら、いつでもお話を伺いますので、気軽にお声をかけて下さい。個別に、食事栄養相談も受け付けております。

これからも栄養室を宜しくお願いいたします。

栄養室 責任者 岡田 知也

＜常食＞



＜キザミ食＞



＜ソフト食＞



＜ミキサー食＞



編集後記

先月に引き続き炎暑・酷暑お見舞い申し上げます。いやーとにかく暑いですね。

水の補給、塩分の適度な補給、エアコンの使用など皆様におかれましては、熱中症対策に引き続き十分お取り組みください。歯科病院のとくに3階西診療室、4階西診療室では診療台の位置によっては気温に差があるようです。気分が悪いなど何かご不調がございましたら、どうぞご遠慮なく担当医にお申し出ください。

(K.T)